

株式会社 モノテクノス

- 所在地：〒261-7102 千葉県千葉市美浜区中瀬 2-6-1
- 代表者：代表取締役 西尾卓哉
- 創業・設立：2017年4月
- 事業内容：試作基盤、プログラム開発、プログラミング教室等
- URL：http://monotechnos.co.jp/index.html



【取材対象者】

代表取締役 西尾卓哉氏

【ビジネスを通して社会的課題を解決】

自身の経験から今のビジネスモデルのきっかけを得る。

ニッチな部分に目を向け、より良い社会を目指していく。

■会社を立ち上げようと思った理由

20歳の頃から起業に興味を持っていたことに加えて、特に最近の大手企業は新しい事業に着手するということがあまりなく、サラリーマンだとやりたいことがなかなかできないと感じていた。そこで、冒険できるのはベンチャーくらいしかないと考え、自分のマーケットバリューから、40代のうちに起業する方が良かったと思ったことから会社を立ち上げることにした。

■CSRの考え方

大企業はCSRとして、利益を還元すべく社会貢献をしている。特に上場企業はパブリックカンパニーのため、その傾向が強い。

当社は、まずは会社を大きくしていくことが最優先。ただ、この企業を設立する時から、新しい取り組みとして、発達障がいのあるお子様を、技術者として仕事ができるように育てていくというビジネスを考えていた。現在のところ、発達障がいのあるお子様は進路が非常に限られている。その中でも特に理系は少ない。よって、プログラミングなどの理系の職業に向いている子供たちを見つけ、その能力を引き上げるために、

電子工作やプログラミングのイベントを行っている。私たちの場合はビジネスを通して社会貢献しようとしている。

・発達障がいのあるお子様に向けた取り組みを始めた理由は

息子に発達障がいがあり、小学生の時は大変な時期もあったが、小学校4年生の時に、買ってあげたラジコンが気に入って一緒に遊ぶようになった。そして休日になると息子が「お父さんラジコンしにいかないの？」と誘ってくるようになり、これはチャンスだと思いレースにもチャレンジしたところ、大会で優勝するまで成長した。

このような経験により、息子はメカを触ることが好きになり、中学校に入学する頃には特別学級から普通学級に移ることにした。そして、工業高校に行き、今では技術系の就職が決まり、今年から働き始める。

このような自身の体験をノウハウに、同じような境遇の子供たちの役に立てたらなと思った。これは以前就いていた仕事の時からずっと考えていたことで、その当時はボランティアで行っていたが、ある程度ビジネスとしてできるという感触を掴ん

だため、起業して取り組んでいる。

・発達障がいのある方の活躍の場はコミュニケーションを取ることが苦手で、仕事にすぐ就くことができない子もいる。そこで、例えば週に1日4時間など、変則勤務でも仕事ができる機会があったら、より活躍の場は広がるのではないかと考えている。

■今後会社をどうアピールしていくか

千葉県、千葉市が行っているイベントで、登壇をお願いされることが多い。そこで話すと、こんな会社があるのかという反応があり、会社と会社が繋がっていく。話すのが苦手ではないため、そのような繋がりを広めていきたい。実際にやってみると、人の縁の大事さを感じる。泥臭いが、会社の考え方や、自分の考えが伝わっていく。このように少しでも会社、自分のことを知ってもらえればなと思っている。

■20歳の方へメッセージ

アグレッシブに動くことが可能な歳年なので、やりたいことを思い切りやったほうが良い。1個に集中する人もいれば、いろんな体験をする

人もいる。体験や経験を積むことで人生が大きく変わっていくと思う。また、その上でいろんな人と出会う。それが人生のターニングポイントになってくると思う。やりたいことをやって欲しい。

■編集後記

◎植田 覇

私が株式会社モノテクノス様を訪問する前は一般的なベンチャー企業の一つ、といった印象でした。ベンチャー企業は会社の利益を出すのが最優先というのが自分の考えで、CSRというもの存在するのだろうかという疑問を抱いていました。しかし、発達障がいのあるお子様の就職先の可能性を広げる取り組みは、ビジネスを通して社会的課題を解決するといったもので、とてもCSRに近いものを感じました。一般的なベンチャー企業は技術力を使って、障がいのある方の生活を向上させるといった、障がいの部分に視点が向きがちだと思いますが、障がいのある方の未来について着目したのは、独特な視点で衝撃を受けました。

また、西尾社長のビジネスに対する姿勢、考え方は素晴らしいと思いました。「成せば成る、成さねば成らない。何事も。」をモットーにしているとおっしゃっていて、発達障がいのあるお子様に向けた取り組みや、会社の名を広げていくために登壇するといった、何事にも挑戦し、行動するといった姿勢は今の自分にも感じました。

今回、株式会社モノテクノス様をヒアリングできたからこそ、CSRの理解を深められたと思います。この度は本当にありがとうございました。

◎片岡 友樹

様々な話を聞かせていただきましたが、興味深い内容ばかりでした。西尾社長は「CSRとしてではなくビジネスを通して発達障がいのあるお子様に社会貢献をしていきます」とおっしゃっていました。新たな挑戦として「発達障がいのあるお子様が仕事で活躍できるビジネスモデルを創る」と聞いて私は、今まで自分が体験していないことを体験し、後悔しないように何事も全力で挑戦しようと思いました。社長から伺った話を今後の生活で生かせるよう努力していきます。株式会社モノテクノス様ありがとうございました。



◎裴 龍臣

留学生として、私が企業の社長にインタビューするとは思っていませんでした。栗屋ゼミのおかげで普段では体験できない機会をいただきました。

今回のインタビューでは発達障がいのあるお子様への取り組みを行おうと思った理由や、20歳の頃にしていたことのお話をお聞きしました。

特に印象深かったのはチャレンジをするという言葉です。また、夢を持つことができれば実現することが可能だと感じました。しかし、会社を立ち上げてからも社会責任や、取締役の責務、緊張感、不安など大変なことがたくさんあるということも分かりました。

今回のインタビューを今後の生活に生かせるように努力していきます。本当にありがとうございました。

■敬愛大学経済学部経営学科栗屋教授より総評

同社は2017年4月に設立された若い企業である。同社の事業は今後も成長が期待されるIoT、AIの分野であり、電子回路、プログラム開発である。

代表の西尾卓哉氏はその哲学により、主事業である電子回路、プログラム開発のノウハウを教育に展開し、発達障がいのあるお子様の技術者育成の事業をも行っている。この点が、同社の志の高さである。西尾社長ご自身はCSRとあえて意識をされていないようであるが、事業内容がCSRそのものである。まさに無意識のCSRの具現化である。

自らの人生よりビジネスを展開されている西尾社長、またスタッフの方々に感謝申し上げます。